

杭が支持層に到達しない！・・・もうそんな心配はいりません。  
10倍のスピードと1/3のコストで、杭の支持層をクリアにします。

### ボーリングと大型動的コーン貫入試験(SRS)の違い

調査種別	新基準SRS	ボーリング
概略図		
調査概要	地盤の固さ N d 値(20 cmごと連続) 簡易試料採取 攪乱試料	地盤の固さ N 値(1.0m ごと) 試料採取 攪乱及び不攪乱試料 その他孔内試験 水平載荷など
日当り調査量	30m ~50m	10m ~15m
機動性	やぐらの解体組立不要、機動力高く、 1日数ヶ所の調査が可能	やぐら組立解体が必要で、1日1ヶ 所が限度
特徴	砂質土N 値50以上の貫入は困難 粘性土N 値30以上の貫入は困難 粘性土N d 値は、N 値に比べ大きい 調査深度の目安は、30m 程度まで	土質、固さは、選ばない。 必要深度を調査でき、汎用性が高い 信頼性高いが、機動性に欠け、費用 大で、調査期間が長い
経済性 標準貫入試験との比較	ボーリング費用に比べると1/3 ~1/4 程度のコスト安	SRS 試験の3 倍~4 倍程度

弊社は平成22年より、大阪市立大学大学院をグループリーダーとする基準化委員会のメンバーと共に『大型動的コーン貫入試験(SRS)』の試験調査を各地で実施して参りましたが、昨年、当試験は地盤工学会の『新規制定地盤工学会基準』(JGS1437-2014)に制定されました。

行政の動き(平成28年3月4日)

このたび、杭偽装に鑑み、コンクリート杭に係る国交省告示【告示第468号】及び住宅局課長通達【国住指第4240号】がありましたが、『既製コンクリートぐいは、設計図書を踏まえて事前に工場生産することが通例であり、場所打ちコンクリートぐいと比べて、大幅なくい長変更が発生した場合に現場での迅速な対応が困難となることを踏まえて、適確に支持層を設定することができるよう地盤情報が十分である必要があります』(住宅局課長通達【国住指第4240号】抜粋)とあり、今後、施工時の追加地盤調査を設計図書に記載することが求められます。

お問い合わせはこちらへ



〒619-0237  
京都府相楽郡精華町光台3丁目2番地5  
TEL 0774-27-6946 FAX 0774-98-2085

e-mail : wiwi-keihanna2002@maia.eonet.ne.jp

クイ違いで大違い...基礎工事担当者のチャレンジ・リノベーション!



有限会社  
ウィルコンサルタント

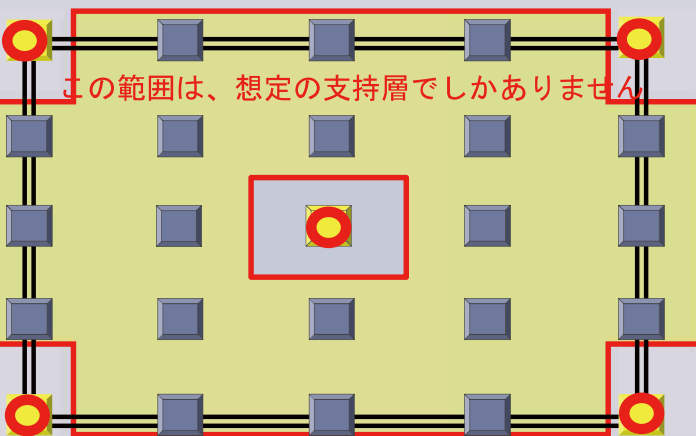
# 杭が支持層に到達しない?・・・もうそんな心配は必要ありません。 10倍のスピードと1/3のコストで、杭の支持層をクリアにします!!

## 基礎の数だけ地盤調査すれば、杭はジャストフィット

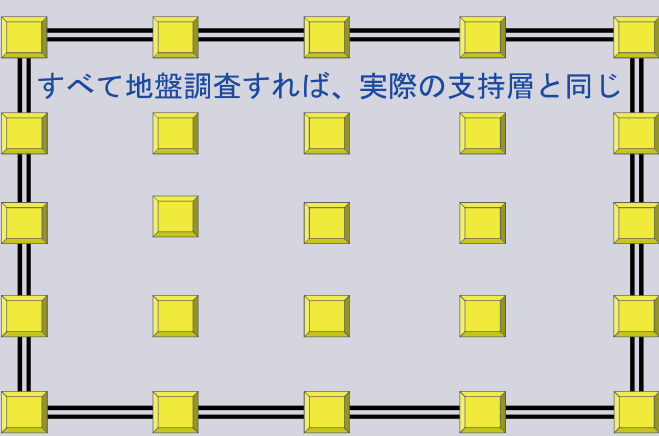
基礎の数だけ地盤情報があれば、杭打ち工事における二つの大きなムダをなくすることができます。

1. 杭の打ち直しにともなう**工事費のムダ**がなくなります
2. 杭の追加発注にともなう**工期のムダ**がなくなります

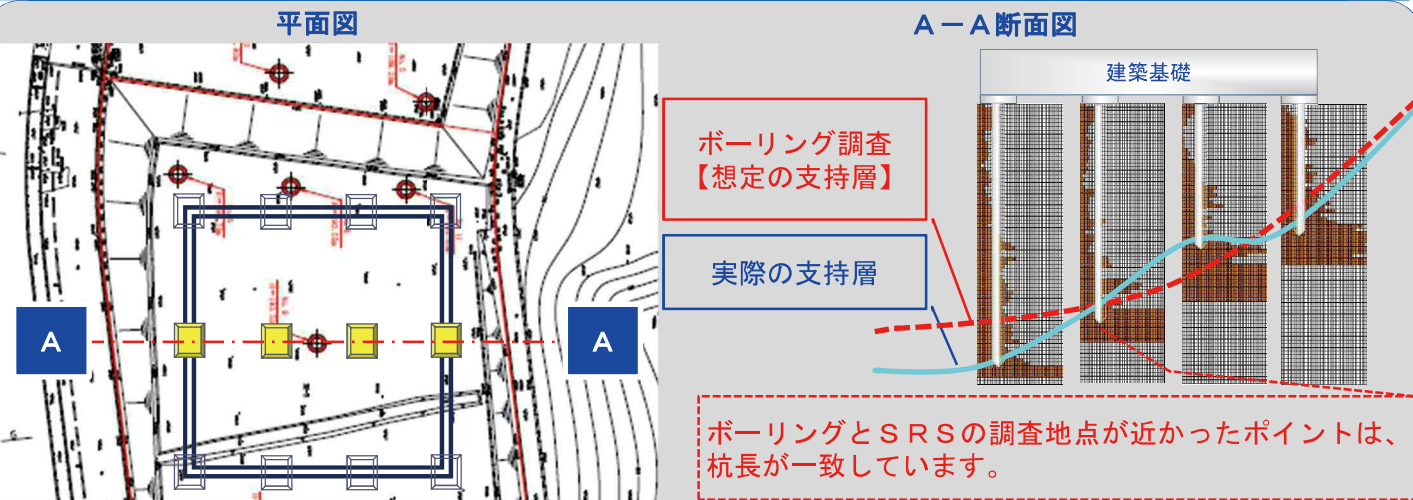
### 従来型のボーリング調査



### 基礎の数だけ地盤情報を得る



## 実施例の概念図



基礎の数だけ地盤情報があれば、現場のムダはずいぶん減るよね。

所長のおっしゃるとおりですが、ボーリング調査をそんなに増やすと**費用と工期がかかりすぎますよ。**

## 大型動的コーン貫入試験機 (SRS) の活用

『調査ポイントを増やすことは、調査費用と調査期間の増大につながる』とご心配されるのは、もったいなことです。

そこで、当社では従来のボーリング調査に加え、大型動的コーン貫入試験 (SRS) を組合わせる『調査方法』でこの課題を解決します。

調査費用は、ボーリング調査の 1 / 3

25基礎平面図		25基礎 × (10m~15m/本) の調査量とすると		
	SRS調査の場合 (工期約10日)		ボーリング調査の場合 (工期30日)	
	50,000円/本	× 25ヶ所	150,000/本	× 25ヶ所
	1,250,000円		3,750,000円	

このケースのSRS試験費用は、杭2~3本の打ち直し費用と同じです

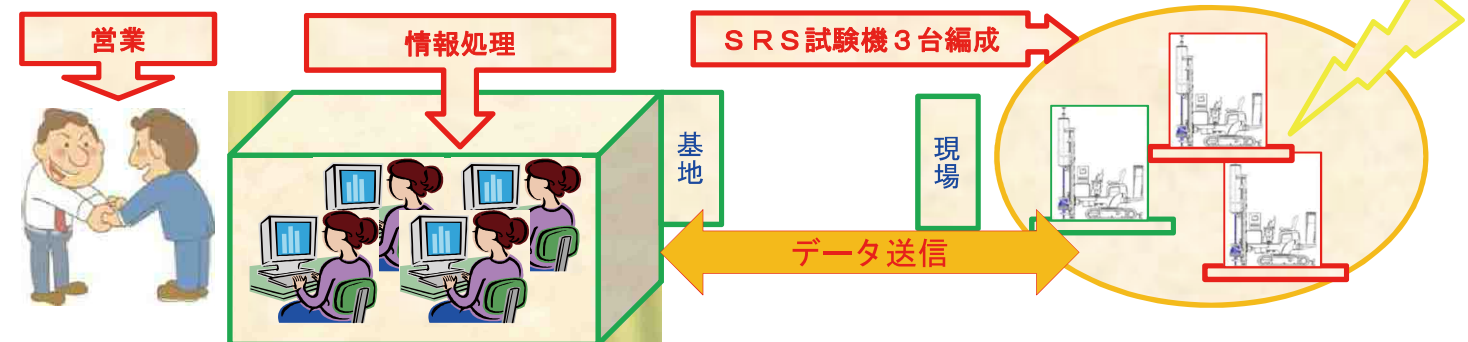
工期短縮効果は2ヶ月以上

杭の打ち直しによる継杭の追加製造 (約2ヶ月) および追加工事の期間をなくすることができます。



調査スピードは、ボーリング調査の10倍

SRS試験機を3台編成にすることによって、ボーリング調査の10倍の速度を実現します。



調査データは、翌日中にメールにて送信

